＜研究成果の紹介＞

極早生ウンシュウ新品種「みえ紀南１号」

農業研究部　紀南果樹研究室

１．成果の内容

三重県紀南地域は温暖な気候を利用した極早生ウンシュウの早期出荷が盛んな地域です。しかし、最近では、産地間競争も益々激しくなっており、三重県においても優良な極早生ウンシュウ独自品種の育成が急務となっています。このような状況の中で、紀南果樹研究室では平成５年より極早生ウンシュウ新品種の育成を進めてきました。その中から「崎久保早生」の種子を播種して得られた個体で、糖度が高く、減酸も早い系統を平成１８年２月に「みえ紀南１号」として品種登録申請しましたので紹介します。

(1)「みえ紀南１号」の特性

「みえ紀南１号」は「崎久保早生」の果実にできた種子を播いて育成した珠心胚実生であるため、若返り現象により樹勢が強く、最初はトゲも多く発生しますが、接ぎ木による栄養繁殖によりトゲの発生は減少していきます。開花時期や果実の大きさ、果径指数は「崎久保早生」とほとんど変わりません。果肉色は「崎久保早生」に比べて、同時期では明らかに赤みが強く、果実外観の着色は「崎久保早生」に比べてやや早い。果実糖度は、９月上旬の高接ぎ樹では２ヶ年平均で9.5％と、「崎久保早生」に比べて1.6％高い。また、１０月上旬では10.4％で、「崎久保早生」より1.4％高い。クエン酸の減少は早く、９月上旬には0.99％となり「崎久保早生」の1.53％と比べると７～１０日程度減酸が早いと考えられます（表1,2）。

２．技術の適用効果と適用範囲

極早生ウンシュウの栽培地域に利用できます。

３．普及、利用上の留意点

ウイルスに罹病していない健全な種苗を導入することが大切です。

（市ノ木山　浩道）

表１　「みえ紀南１号」の特性（2005年）

品種名	樹　姿	樹勢	とげの多少	発芽期	開花盛期
みえ紀南１号	開張	中	多	4月6日	5月8日
崎久保早生	開張	中	少	4月7日	5月10日

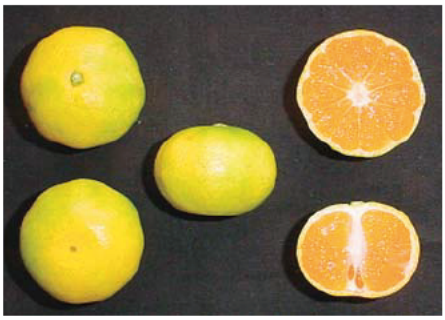

写真１　「みえ紀南１号」の果実

表２　「みえ紀南１号」の果実形質（2005年および2006年の平均）

品種名	調査時期	果実重 (g)	果形指数	着色歩合 (分)	果肉色 (ｶﾗｰﾁｬｰﾄ)	糖度 (%)	クエン酸 (%)
みえ紀南１号	9月上旬	83.9	128	0.7	6.4	9.5	0.99
	10月上旬	103.3	131	4.9	7.1	10.4	0.66
崎久保早生	9月上旬	81.6	128	0.2	4.2	7.9	1.53
	10月上旬	106.5	134	2.8	5.9	9.0	0.93